

中越沖地震における柏崎刈羽原子力発電所に関する 安全性と健全性の柏崎市民説明会アンケート集計結果

説明会日程

H21. 3. 7 13:30 ~ 15:43

H21. 3. 7 18:30 ~ 20:41

H21. 3. 8 13:30 ~ 15:47

H21. 3. 8 18:30 ~ 20:51

H21. 3. 9 18:30 ~ 20:42

H21. 3.10 18:30 ~ 20:47

田尻コミュニティセンター 体育館

市民プラザ 風の部屋

ワークプラザ 柏崎 多目的ホール

枇杷島コミュニティセンター 体育館

荒浜コミュニティセンター 体育館

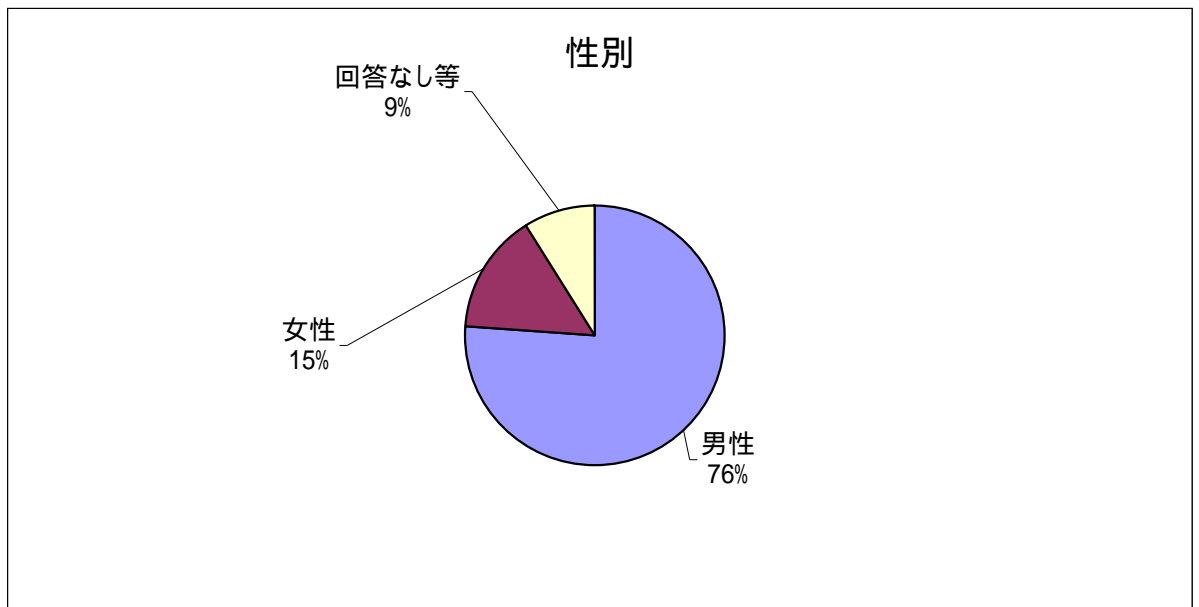
西山いきいき館 いきいきホール

参加者数

	人数	アンケート提出者数	提出率
田尻コセン	32	26	81.3%
市民プラザ	48	41	85.4%
ワークプラザ 柏崎	34	25	73.5%
枇杷島コセン	58	47	81.0%
荒浜コセン	48	39	81.3%
西山いきいき館	76	66	86.8%
合計	296	244	82.4%

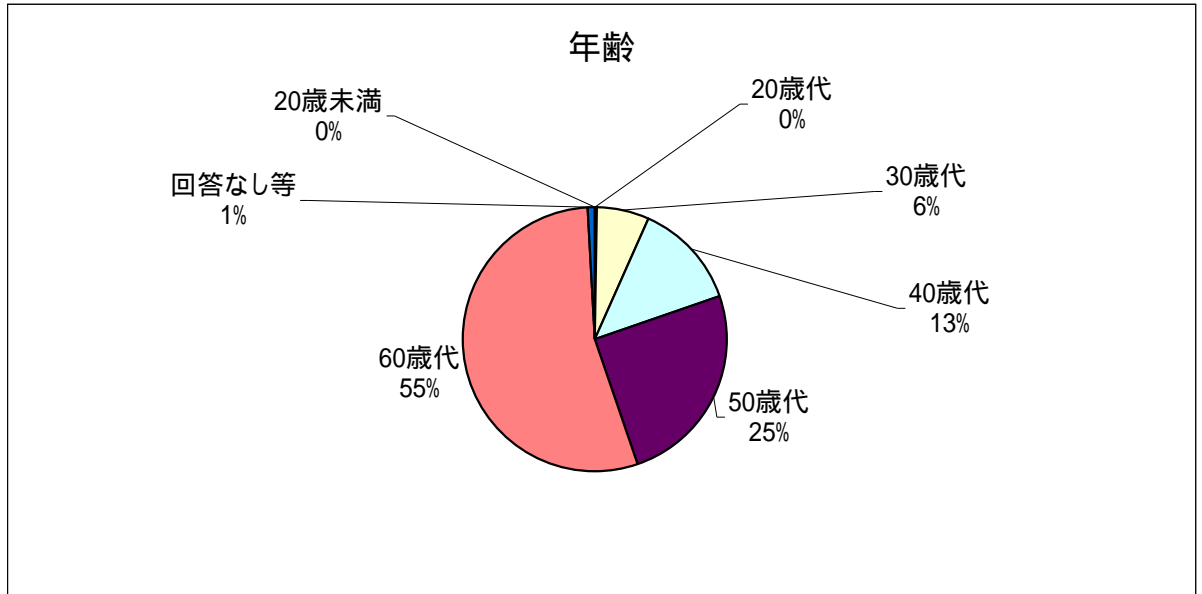
性別

	男性	女性	回答なし等	合計
田尻コセン	18	5	3	26
市民プラザ	32	7	2	41
ワークプラザ 柏崎	14	7	4	25
枇杷島コセン	40	5	2	47
荒浜コセン	32	3	4	39
西山いきいき館	50	9	7	66
合計	186	36	22	244



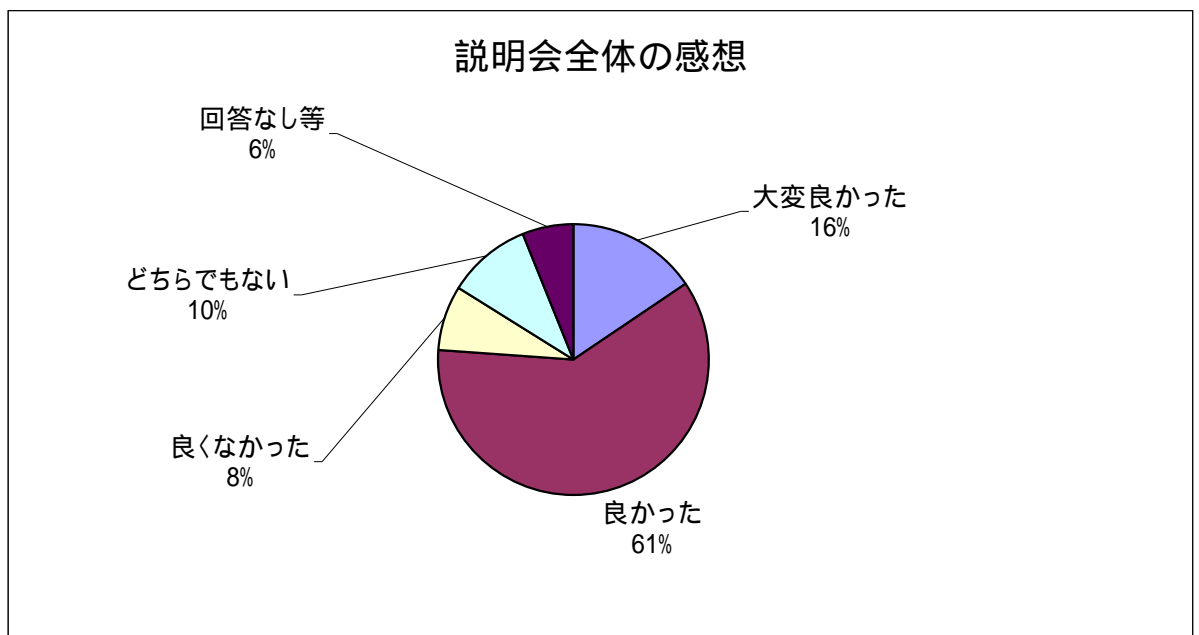
年齢

	～20	20～	30～	40～	50～	60～	回答なし等	合計
田尻ミセン				7	3	16		26
市民プラザ			4	5	17	14	1	41
ワークプラザ 柏崎			1	7	6	11		25
枇杷島ミセン			4	9	6	28		47
荒浜ミセン			1	2	13	22	1	39
西山いきいき館		1	5	2	16	42		66
合計	0	1	15	32	61	133	2	244



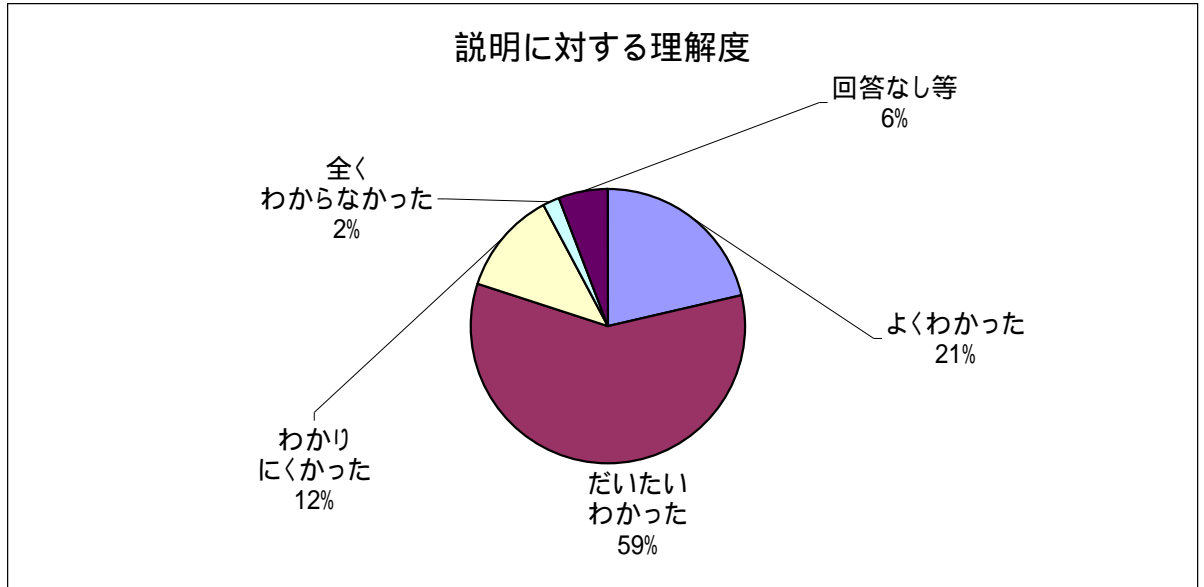
説明会全体の感想

	大変良かった	良かった	良くなかった	どちらでもない	回答なし等	合計
田尻ミセン	3	19	0	3	1	26
市民プラザ	9	18	6	4	3	40
ワークプラザ 柏崎	1	15	4	3	3	26
枇杷島ミセン	8	27	3	6	3	47
荒浜ミセン	6	25	2	4	2	39
西山いきいき館	11	44	4	4	3	66
合計	38	148	19	24	15	244



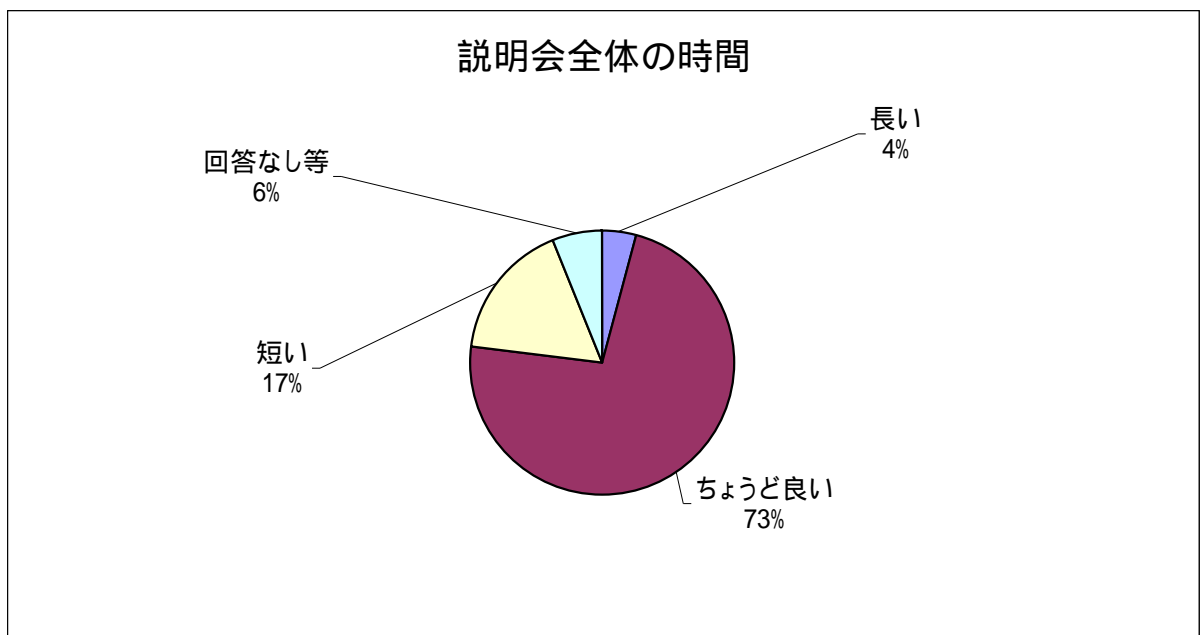
説明に対する理解度

	よくわかった	だいたいわかった	わかりにくかった	全くわからなかった	回答なし等	合計
田尻ミゼン	4	16	4	0	2	26
市民プラザ	10	20	8	0	3	41
ワークプラザ 柏崎	6	12	3	2	2	25
枇杷島ミゼン	10	26	8	2	1	47
荒浜ミゼン	12	24	1	0	2	39
西山いきいき館	10	45	6	1	4	66
合計	52	143	30	5	14	244



説明会全体の時間

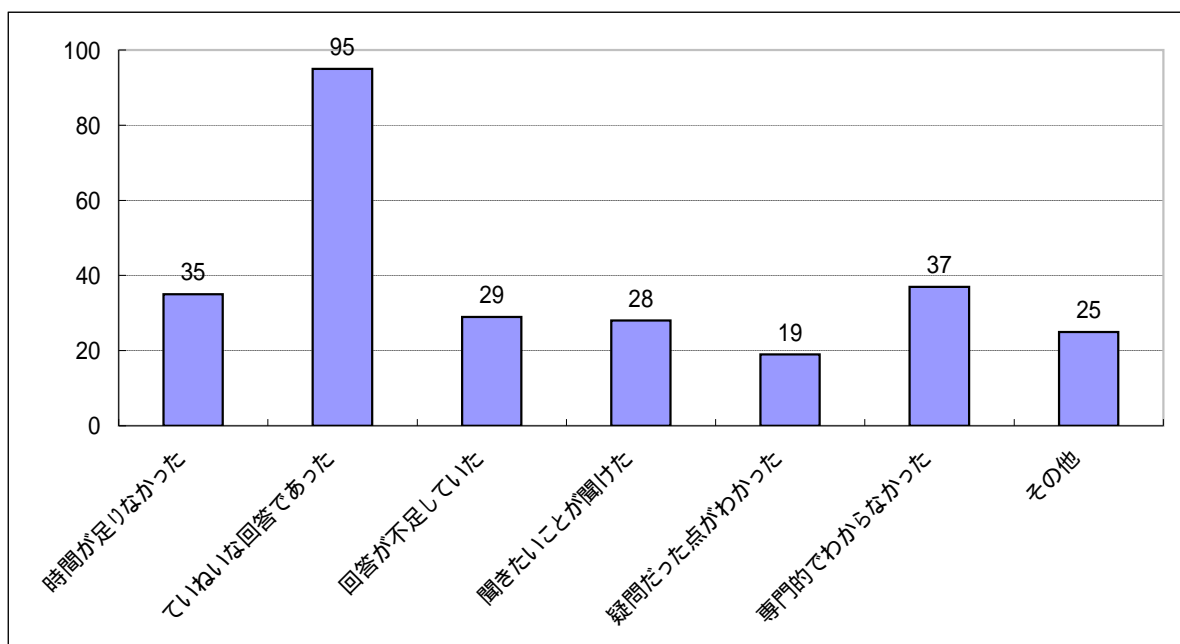
	長い	ちょうどよい	短い	回答なし等	合計
田尻ミゼン	0	22	4	0	26
市民プラザ	0	28	9	4	41
ワークプラザ 柏崎	1	14	9	1	25
枇杷島ミゼン	5	34	5	3	47
荒浜ミゼン	1	31	4	3	39
西山いきいき館	3	49	10	4	66
合計	10	178	41	15	244



質疑応答について

								回答なし	合計
田尻コミセン	2	10	1	3	0	2	3	7	28
市民プラザ	5	13	10	5	6	6	1	12	58
ワークプラザ 柏崎	5	6	3	3	1	3	7	3	31
枇杷島コミセン	8	19	6	4	2	10	6	9	64
荒浜コミセン	2	15	8	8	3	9	6	7	58
西山いきいき館	13	32	1	5	7	7	2	16	83
合計	35	95	29	28	19	37	25	54	322

- 時間が足りなかった
- ていねいな回答であった
- 回答が不足していた
- 聞きたいことが聞けた
- 疑問だった点がわかった
- 専門的でわからなかった
- その他(主なもの)
- ・市の質問が良かった。
- ・一方的な説明と的外れの回答ばかりであった。
- ・東電寄りの推進の立場の説明ばかりであった。別の見解のあることも説明してほしい。
- ・反対派の発言には説得力があった。
- ・不適合事象に対応しきれず、たくさん残っていることがわかった。
- ・保安院の説明、回答が長すぎる。もっと簡潔にほしい。
- ・保安院の毅然とした説明に安全を確信した。
- ・他の地域の者が見苦しかった。
- ・特定の人たちに質問時間が取られ過ぎた。
- ・討論が感情的過ぎて、会の主旨とは違うと感じた。



3 / 7 ~ 10 開催の柏崎市民説明会における発言・アンケートの概要

会場でいただいた意見・アンケートについて、主な意見をまとめたもので、同じような意見は一つにまとめてあります。

会場

(1) 火災・事故の多発

- ・原発そのものよりも火災の方が心配
- ・今までの火災の教訓はどう活かされているのか。
- ・徹底した原因調査をして、今後活かすべき。
- ・東電だけでなく、指導する保安院の責任もある。
- ・ヒューマンエラー、コミュニケーション面からの検討も必要

(2) 地質・断層

- ・F - B断層の北方延長の可能性
- ・手引きに沿った保守的な検討が必要
- ・更なる調査が必要
- ・プログラデーションの土砂供給源の解明
- ・海上音波探査では深い所の断層はわからない。

(3) 耐震安全性・健全性

- ・点検、解析の信頼性に疑問
- ・目視点検では不十分であり、全機器の非破壊検査が必要
- ・目視点検不能箇所での解析による裕度が小さい設備はどうやって確認したのか
- ・補強した現設備はどの程度の地震に耐えられるのか

(4) 運転再開

- ・点検不十分なままでの運転再開に不安
- ・異論もあるが、設備に異常はなく、補強もしたので国が安全との評価に異論はない
- ・市の了解の判断基準は

(5) その他安全性

- ・批判的な意見も斟酌すべき、公開討論会を開催すべき
- ・津波想定信頼性
- ・二酸化炭素地中貯留試験の地震との関連性
- ・経済産業省に属する保安院の判断は信用できない
- ・地震予知の体制・設備の整備を

アンケート

(1) 火災・事故の多発

- ・火災の頻発により東電の管理体制に疑問、それでは安全確保できない。
- ・東電の体質改善方法は
- ・ソフト面、人為面の対策が必要
- ・徹底した教育を望む
- ・東電の隠ぺい体質に不安があり、全てのトラブルの公開を
- ・事故・火災の頻発では再開は時期尚早

(2) 地質・断層

- ・佐渡海盆東縁断層の否定は新指針違反、安全側に判断すべき
- ・過去の過小評価の教訓から、更なる調査と新知見を取り入れた評価を
- ・反対の立場の人の話を聴きたい。

(3) 耐震安全性・健全性

- ・安全サイドに立った保安院の点検・評価・議論から反対の人の求めている安全が必要以上であると感じた
- ・耐震性はあくまでも計算上
- ・経年劣化に加えて想定外の地震力を受けたのだから、新品以上の点検をすべき
- ・耐震補強によりM7.5の地震に耐えられるのか
- ・不安解消のために起動試験後のスクラム試験を実施すべき
- ・インターナルポンプケーシングの耐震性に問題
- ・想定以上の揺れにも無事で耐震補強もしたので大丈夫と思う

(4) 建屋の傾斜

- ・建屋傾斜の原因不明では安全性に問題なしとは言えない

(5) その他安全性

- ・保安院の独立性に疑問、信頼・信用できない
- ・自然災害以外のソ連事故の問題、テロなど対しても安全確保が必要
- ・断層がもっと長くなれば市全体の耐震はどうすべきか

(6) 行政へ

- ・情報共有で安心が生まれる
- ・あらゆる事項を公開する場の設置を
- ・早めの情報提供

(8) 国

- ・クロスチェックを行うなどしっかり確認していると感じた
- ・真剣な精査・解析をし、わかりやすい説明の姿勢を感じた

- ・国の権威で威圧しているだけ
- ・独立性が見られず、事業者・推進側のみに立っていて、住民側には立っていない
- ・更なる安全確保を希望

(7) 説明会

- ・親切な説明でわかりやすかったが、知識がないと信用するしかない
- ・他の方法でも市民の意見・意向を把握すべき
- ・説明会の議論を公開すべき、発言の活用法は？質問への回答は？
- ・学者の話を市民が聴く機会を
- ・無知が怖い原因の一つであり、初歩の勉強会の機会を
- ・再開ありきに説明会
- ・影響なしが具体的にわかるよう数字で

(9) 運転再開

- ・国の責任で安全が確認されたので自治体は速やかに再開を許可すべき
- ・未だ疑問を持っている人が多いことを今後の判断で配慮・留意すべき
- ・市長は自分だけの判断で決めるのか不安
- ・住民投票を実施すべき
- ・想定を超える揺れを被ったのだから廃炉にすべき
- ・安全と信頼の上での共存が望ましいが、事故や火災頻発では、時期尚早

中越沖地震における柏崎刈羽原子力発電所に関する安全性と
健全性の柏崎市民説明会会場、アンケートからの意見質問等

1 田尻コミセン（H21.3.7 13:30～15:43）

会場から

- ・ 点検者の知識・技能の過信は不安。タービン損傷等、地震によるものでない、あらかじめ想定できないことも多い。非破壊検査等、実証的検査もしてほしい。
- ・ F - B断層はまだまだ北方に延びるのではないのか。
- ・ 県技委では意見が分かれている。国では70名も専門家がいて見解は分かれなかったのか。
- ・ 佐渡海盆東縁断層というものはF - B断層とおなじものなのか。大陸棚が続いているのに南北で成因が違うのはなぜか。活断層に関する安全手引では「より保守的に北方に延びる」ものと考えべきではないのか。
- ・ 原発そのものよりも火災が心配である。東電だけでなく、監督庁である保安院の対応もしっかりしてほしい。
- ・ 大陸棚西部から佐渡海盆への落差が300mである。これは変動地形ではないのか。
- ・ 断層が延びると想定がM7.5となり、基準地震動が変わることとなり、非常に重要なところである。石橋・渡辺両氏と保安院で公開討論してほしい。

アンケートより

- ・ 8件の火災があった。以前からも火災やけが人が出ていたのではないのか。東電の隠蔽体質が不安である。今後小さなことも隠さず発表してほしい。
- ・ 佐渡海盆東縁断層の否定は新指針違反ではないのか。新指針では「存在が否定できないものは認めるべき」としている。
- ・ 情報を共有することで安心が生まれると思う。今後あらゆる事項を公開する場を設けてほしい。
- ・ 質問者を市民に限定しないでほしい。市内通勤者も同じ立場である。問題は柏崎市だけでなく、周辺地域にまで及ぶものである。問題が専門的であり、広く知識のある者の質問にも応ずるべきである。
- ・ 専門家の話は非常に良い話ばかりのようで納得しがたい。十分な安全で行ってほしい。
- ・ 安全性を確認し、県・市・村三者合意があれば、できる限り早く7号機の運転を始めるべきである。
- ・ 2、4号機が手つかずである理由は何なのか。
- ・ 火災等ヒューマンエラー防止策はどのように実施されるのか。
- ・ 安全かどうかなかなかわからない。
- ・ 原子力発電所の安全性の向上と火災発生の防止について一層力をいれてほしい。
- ・ 耐震性について、ある程度わかりました。今後も万全を期していただきたい。
- ・ 資料に基づく親切な説明でわかりやすかったが、内容と実態が合致するのか。

専門知識のない者は信用するしかないが、参加して良かった。

- ・ 電気は重要なものであり、発電所は地域にとっても必要なものである。安全に注意しながら、一日も早く再開してほしい。
- ・ 塑性ひずみが確認できていないならば、運転再開すべきではない。
- ・ 保安院は信用できない。
- ・ 設備関係の健全性、耐震性については、都合の良い説明であった。もっと議論が必要なはずである。

2 市民プラザ(H 2 1 . 3 . 7 1 8 : 3 0 ~ 2 0 : 4 1)

会場から

- ・ 断層北方延長部をプログラデーションとするならば、その堆積物の供給源はどこなのか。
- ・ 7号機再循環ポンプについて、その解析値は M7 . 0 のとき許容値ぎりぎりであるが、どのようになっているのか。
- ・ 保安院には、人の生命について倫理感を持つ者、医学的な知識を持つ者はいるのか。
- ・ 音波探査について、途切れ途切れの探査では不足である。今後の地震対策について再考してほしい。
- ・ 国も東電も話の内容はほぼ同じであり、「わからなかった。ごめんなさい。」では足りない。科学的なものには誤りもあることを認識してほしい。安全を考えたら、断層が延びる可能性を採用してほしい。科学者が議論中のことを結論付けるのか。なぜ安全側に見ないのか。
- ・ ほとんどの学者は国の判断に批判的である。M7 . 5 の耐震基準を考えてほしい。
- ・ 市民活動家、批判的な学者の声にも耳を傾けてほしい。
- ・ 柏崎地域の地盤・地質の特性について説明不足である。
- ・ 建屋・設備の健全性について、点検が不十分なまま、基準地震動が従前の6倍の想定のもと、再稼動するのは不安である。
- ・ 断層について、場所によっては、F B 断層以上に目立つものが南にあるが、どうなっているのか。

アンケートより

- ・ 今後起動試験を経て運転再開になると思うが、早く地元の信頼を回復すべくトランプルの公開等を願いたい。
- ・ 保安院は原安委やJNES等のチェックもあり、しっかり確認されていると感じた。今後もていねいかつ確実な安全確保をお願いします。
- ・ 100%信頼しています。総理大臣より「早く動かせ。」と言ってもらえないだろうか。
- ・ 今日の説明会は身近に感じた。
- ・ 設備について、補修・強化を行ったとのことだが、専門的な言葉が多く、わか

りにくかった。写真等を使用すればよかったのではないのか。

- ・ 市、消防、所轄官庁と連携し、安全・安心・健全を目指して対応してほしい。
- ・ 口とは裏腹に保安院は東電の側に立っており、地域住民の立場にはたっていない。万一のときも対岸の火事くらいにしか思っていない。緒戦は首都圏の人間である。「これで議論は出つくした。」などとは間違っても言わないようにしてほしい。
- ・ 地震に対する安全性ばかり論点になっているが、チェルノブイリ事故等施設内部の問題や他国からの標的になるなど国際問題に関しても心配である。自然災害だけでなく、人的災害、政治的災害の点も安全性が確保されなければ住民は不安である。
- ・ 施設の老朽化も心配である。
- ・ 保安院も真剣に精査、解析し、市民にも細やかにわかりやすい説明に努めている姿勢が感じられる。
- ・ このようなことは日本国内外の原発とも情報交換がなされ、生かされていくのだろうか。
- ・ 常に最悪のケースを想定したうえでの評価、対応を望みたい。
- ・ 火災の多発は、最先端の科学技術を駆使していく知識、技術、意識の欠如ではないのか。ハードよりソフトの問題だと思う。
- ・ 保安院の確認が取れたので進めて良い。
- ・ 各号機建屋の排気口にも、放射能測定器は設置されているのか。配置場所、個数を知りたい。
- ・ 火災発生が多すぎる。地震、地質の安全対策も大切であるが、人為的な不注意による災害発生が心配である。
- ・ 今この時期に「安全」との結論を出すことに大変疑問を感じる。1基の建設に3年以上を費やしているのに、点検、安全審査を1年半くらいで終了させるのは無理がある。
- ・ 火災が起こるたび東電は頭を下げ、保安院は断層の長さや想定外の地震など見込み違いがあっても責任を取らない。住民の1人としては、東電や保安院など信頼することはできない。
- ・ 保安院が機器単位の評価でどこまで立ち会ったのか、またそのとき使用した計測機器の信頼性は問題なかったのか等が不明確である。
- ・ 説明は理解できたが、安全性が理解できなかった。
- ・ 7号機が100%復旧しているとのことだが、地震直後の損傷の程度が知りたかった。
- ・ 安全ということを感じていいのか。まだ不安である。
- ・ 7号機だけの議論なのか、全体のことなのか、不明確である。
- ・ 市長はどうやって民意を判断するのか、自分だけの判断で決めるのではないか、不安である。
- ・ もし運転したとしていつまで使うつもりなのか。
- ・ 建屋に0.3mmのひびがあったとのことだが、耐震安全性の評価では、その存在を前提にさらに力が加わった場合を評価しているのだろうか。ひびが大きくなれないか心配である。
- ・ 反対している人たちの論点はわかったが、それが必要以上の安全(原子力の安全性以上)を求めていることが、保安院の説明でよくわかった。保安院は安全サ

イドに立って点検、評価、議論していることがわかったので、1日も早い地元了解が出て、7号機の起動試験の開始を望みます。

- なお、疑問を持っている人、疑問が解消されない人が多いことが明らかになったことを、起動試験開始の同意等、今後の進め方において、配慮すべきである。まだ、当分は結論を出すべきでないことに十分留意してほしい。
- 国の責任により、安全性が確認されたので、それを信用し、地元自治体は速やかに運転再開を許可すべきである。そして、地域の経済復興を目指してほしい。
- 調査データについての理解は立場によって異なっているようだ。市民としては安全性の高い数値で対応してほしい。30年前から断層は長いと言っていたことに地震が起きてから見直す等、最悪の結末が出てからでは遅いと思う。
- 原発の安全性については国が責任をもって判断すべきものである。
- 活断層の評価については、もっと信頼できるデータを取る必要がある。過去の知見が過小評価であった反省が見えない。
- 発電所の事故の多発について、火気使用の管理ができてないと思われ、不安である。放射線管理以外の面でも安全管理を徹底してほしい。
- 保安院について、独立性が見られず、推進側の判断である。地域住民の安全に対する配慮がなく、残念である。

3 ワークプラザ柏崎 (H21.3.8 13:30~15:47)

会場から

- 柏崎刈羽原発以外にも100台以上ポンプ溶接をした経験から、目視点検では不十分であり、非破壊検査をしなければ、原子炉は安全とは言えない。状況を考えれば、原子炉にもひびはある。検査できねば廃炉しかない。基準地震動を上げたが、安全率が足りない。今は良いかもしれないが「次」が問題である。
- 地震後の状況について、「定検でも点検している。」はおかしい。6・7号機のインターナルポンプケーシングについて、解析結果はぎりぎりである。M7.0以上の地震になった場合が不安である。断層の北方延長を支持する学者もいる。M7.5でも耐えられるようにしてほしい。
- 渡辺氏も望んでいるが、石橋、渡辺両氏と保安院、断層否定論者とは直接議論をするべきだ。
- 市長は、7号機試運転について、「市民の了解をもめる。」としているが、具体的にどのように進めるのか。
- 県の議論は平行線だが、国は認めた。再稼働は学者が決めることではなく、政治判断である。
- たびたびの火災からも東電には学習能力が感じられない。「マニュアルを守らなかった」のか、「マニュアルそのものが悪かった」のか、等々、原因調査を徹底し、今後に生かしてほしい。
- 応力が問題である。安全率を考慮してほしい。

アンケートより

- ・ 保安院は信頼・信用できない。
- ・ 以前にも安全と言ったが、地震後、微量ながら放射瀬物質が漏れがあったことをすぐに教えてくれなかった。信用できない。
- ・ この説明会だけで再運転してほしくない。
- ・ 原発再開に関しては、「住民投票」でその賛否を問うてもらいたい。
- ・ 説明会に出席できるものは限られている。
- ・ 再開の賛否については、自身不勉強で判断できない。
- ・ 県技委でも不安な点が多く、この段階での原発再開は難しいと思う。
- ・ 説明会で議論されたことを取りまとめて、市民に公開してほしい。
- ・ 市と保安院との質疑応答（保安院の一方的説明）は長時間で疲れた。
- ・ 1人の人だけが発言していたが、機械の疲労のことばかりでなく、他の人の話も聞きたかった。
- ・ 働く人の疲労が溜まらぬように、原発を運転してほしい。
- ・ ある質問者の質問内容が意味不明であり、また時間が長かった。司会はきちんと仕切るべきであった。
- ・ 的を射ない質問があり、残念であった。
- ・ 定検が1年に1回では少な過ぎる。
- ・ 「地震はない」ということで原発はできたが大地震が起きた。活断層について、もっと調べてほしい。
- ・ 建屋傾斜の原因がわからないままでは「安全性に問題ない」とは言えない。運転再開は考えられない。
- ・ 目視点検に自身があれば、火災は起きなかったのではないのか。
- ・ 営業運転に向かって気持ちが安全性に入っていないのではないのか。今一度気を引き締めてほしい。
- ・ F - B断層について、評価が変わってきている。そういったあいまいな部分もあるのに「安全率を組み込んだ基準値」というのは何なのか。
- ・ 耐震性について、もっと余裕を持つ必要がある。安全率の低下やぎりぎりの部分の特定等についても、明確にする必要がある。
- ・ 計算で「大丈夫」と言っているだけである。M7.5の地震が起きたらどうなるのか、不安が高まった。今回の説明では全く納得できない。
- ・ ていねいな説明をありがとうございました。
- ・ 基礎知識がないため、素人にはわからない。
- ・ 解析は机上の計算であり、説明でたびたび「軽微なものだから大丈夫」と言っていたが、かえって不安を増幅した。
- ・ 会場からの質問に出た「安全率」が重要であると思った。
- ・ 想定を大きく超えた地震を受けた原発は廃炉にすべきである。将来大事故を起こす可能性がある。東電、保安院は責任が持てるのか。
- ・ 協力企業が多いためか、火災事故が多すぎる。基本的ところでの、事故防止が徹底されなければ、高度の技術を要する安全性・健全性についても信頼性が揺らぐ。関係機関は火災に対する具体策を提示して、事故防止に万全を尽くしてほしい。
- ・ 残る3回の説明会について、参加者を増やす努力を最大限追及してください。

4 枇杷島コミセン（H21.3.8 18:30～20:51）

会場から

- ・ 主排気塔ダクト、6号機クレーンの損傷、復水器のからの漏れ、非常用タンクの損傷は大丈夫だったのか。
- ・ 石橋、渡辺両氏を呼んで話をしてほしい。
- ・ 保安院は経産省に属しており、その判断は信用できない。
- ・ ABWR インターナルポンプ、特に付け根の部分について、目視点検はできない。東電による解析でも許容値が少なく、危ないとされている。それでも安全と評価できるのか。また、同ポンプにおいてどのような試験を実施したのか。
- ・ 発電所に勤務している。地震後、構内を見て回った。一般の建物や屋外はひどかったが、各号機建屋については驚くほどきれいであった。それらが安全であることを証明することについて、すごい労力であり、点検・修理等については、それ以上に努力している。みんながひたすら一生懸命努めている。
- ・ 起きないと言っていた地震が起きた。安全側に評価してほしい。
- ・ 保安院の説明時間が長すぎたため、市民の質問時間が足りなくなった。1号機について、当初設計値は、起こり得ないとされた273galであった。補強もしていないまま、「1000gal までは大丈夫」と言われても不安である。姉齒と同じではないのか。事故がおきたときはだれが責任を取るのか。

アンケートより

- ・ 早く運転再開の判断をしてください。
- ・ 安全側に立って、判断してもらいたい。
- ・ 佐渡海盆東縁断層をきちんと説明してほしい。
- ・ 国、保安院が安全確認したのだから、1日も早く運転させるべきである。
- ・ 保安院の立場が不明確である。主体が東電でなく、保安院であることを明確にするべきである。
- ・ 専門用語が多く、素人にはわかりにくかった。
- ・ 質問者の要点がまとまっておらず、無駄な時間が経過してしまった。
- ・ 他の会場での質問も紹介してもらいたかった。
- ・ 安全管理を実行し、運転を再開されたい。
- ・ 保安院からの回答・説明が長く、質問時間が短かった。
- ・ 保安院からの安全性・健全性についての説明は良くわかった。
- ・ F - B断層の位置が、反対派の指摘するとおりであるとしたら、柏崎市全体の耐震はどのようにしたらいいのでしょうか。ただし、発電所は想定以上の揺れにも無事であり、耐震補強もしたので大丈夫だと思う。
- ・ 原発の安全性・健全性については、たぶん大丈夫だと思う。問題は東電にあると思う。過去の事故隠しや火災の多発等、東電に原発を管理する資質があるのか疑問である。東電に管理能力がなければ、公的機関が健全性を保証しても、安全性は確保できない。東電の体質改善をどのように行っていくのかに関心がある。

- ・ 火災について、きちんとした原因調査と対策が必要である。
- ・ 話を聞くと動かさない方がいいことがわかった。
- ・ 安全性について良く理解できた。国の評価を信頼している。
- ・ 管理者的な説明で難しかった。一方的な説明で、時間が長く、的を射ていない。
- ・ 保安院は経産省から独立すべきである。
- ・ 事故が発生すれば保安院にも責任はある。きちっと検査してもらいたい。東電の味方になってもらいたくない。
- ・ 静電気か、火花か、なぜ火災が発生したのか説明がほしい。
- ・ 地震は発生するものとして基準を制定すべきである。
- ・ 過去のことを言ってもあまり意味はないと感じた。
- ・ 断層について、例え話等を交えて説明してもらえるとわかりやすかったと思う。
- ・ 不安です。
- ・ 今後も情報公開を望む。
- ・ 地震後、世界的に注目されている柏崎刈羽原発について、詳しく情報発信する必要がある。人類の将来の安心・安全・平和のため、徹底した調査・管理をし、もし危険ならば廃炉する決断を国からしてほしい。
- ・ 耐震は、命に関わる原発だからこそ、徹底した安全構想が求められなければならない。
- ・
- ・
- ・

5 荒浜コミセン（H21.3.9 18:30～20:42）

会場から

- ・ 発電所での波高3.3mの根拠は何か。自然災害は計算外のものばかりであり、実際に日本海中部地震において秋田では波高8m、北海道南西沖地震において奥尻島では波高10mであり、実際にそれ以上の津波は起きている。
- ・ 2、4号機はほとんど点検していない。そのような状態で7号機を動かすのは不安である。
- ・ 地震の際の揺れを考慮すれば、機器に異常がないとは思われない。点検困難箇所には細かなひびはないのか。全ての機器について、非破壊検査をしてほしい。このままでの再稼動は問題である。
- ・ 海域音波探査について、地下深部5～6kmまでの探査では無意味である。地震はもっと深いところで起きている可能性がある。国の言い分には根拠がない。
- ・ 試験運転時に停止はするのか。しないならば、実質営業運転ではないのか。
- ・ 安全とは不測の事態にも無事停まること。地震にも大丈夫だったし、補強もした。学者には両論あるようだが、地元としては、安全は国が担保することであり、国が了解したならば、異を唱えることはない。
- ・ 1号機火災について、「機器単位 系統単位 プラント全体」のどの評価段階に属することなのか。
- ・ 現時点で1号機火災についてわかっていることは何か。6、7号機火災の教訓

はどのようになっていたのか。特に作業員の訓練・講習状況はどうだったのか。別の話だが、このままでは起動試験に不安が残る。

- ・ 長岡西縁断層による地震により、発電所敷地全体で均等に起きるものではないはずである。建屋等は大丈夫なのか。
- ・ 第5測線図上の断層について説明してほしい。
- ・ 「まだ大丈夫」とされていた配管について、穴やひびが生じたことがあった。解析は信頼できない。保安院はこのことに関わったのか。

アンケートより

- ・ わかりやすい回答で良かった。
- ・ 判断については難しいので、よりわかりやすくなるよう工夫が必要である。
- ・ 石橋、渡辺両氏の話をも市民の前で聞く機会を設けてほしい。
- ・ 市民の不安解消・納得のためにも、今ある知見を大事にするべきである。
- ・ 今回実施されている耐震補強工事がどのくらいの地震に耐えられるのか知りたい。
- ・ もっとわかりやすい説明をしてほしい。
- ・ 安全性に問題はないと思う。
- ・ 断層については、いろいろな意見があるが科学的に証明できないことを議論しても意味がない。
- ・ 安全第1にして、7号機の運転再開を行ってほしい。
- ・ 原発の間近に住む者にとって、安全で安心して住める町であってほしい。
- ・ どんな小さな不適合も見逃さないでほしい。
- ・ 安全な運転をしてください。
- ・ 専門の学者の間のいろいろな意見を集約し、国が最終的に安全性・健全性を認めるのならば運転再開は良いと思う。
- ・ たびたびの火災で東電の保安体制に疑問を持つ。直接原子炉に関係ないと言うが、そのシステム・体制が不安になる。徹底した教育を望む。
- ・ 陸域の断層は考えられないのか。
- ・ 7号機の試運転についてのセレモニー的な説明会でなく、もっと早い段階でのものを望む。
- ・ 活断層の見極めは大丈夫なのか。
- ・ 地震の際、荒浜地区の揺れについては、報道も市からの放送もなかった。原発付近の地震については、放送してほしい。
- ・ 安全性について、国にもっと強く言ってほしい。
- ・ 議論が分かれている問題については、住民の安全・安心を第1に、安全の側に立って、判断してほしい。
- ・ 安全に100%はない。基本作業の確立をお願いします。
- ・ 今後の説明会では資料の事前配布をお願いしたい。
- ・ 早い復帰を望むが、保安院及び市には厳しい目で確認し、十分な安全を保障できるまで確認に徹してほしい。
- ・ 今回のような説明会はまだ後のほうが良かったのではないのか。
- ・ 地域の説明会にしては専門的過ぎると思った。

- ・ 時間を守ってもらいたい。
- ・ 地域住民の説明会に、他地域の者に発言させるのはおかしい。

6 西山いきいき館（H21.3.10 18:30～20:47）

会場から

- ・ 「国の「F - B断層は長さ36kmで、これにより想定される地震規模はM7.0である。」とする見解に裏づけはない。近年の災害は、計算を超えている。「松田式」は絶対ではない。
- ・ もし、また同じ所で地震が起きたら、補強した今の設備はどのくらいのものまで耐えられるのか。
- ・ 1号機火災について、これまでも同様のことはなかったのか。ヒューマンエラーの部分に問題があるのではないのか。保安院にも責任があると思われるが、これまでどのような指導をしてきたのか。そして今後どのようにしていくのか。
- ・ 1号機火災について、原因は静電気なのか。また現場の気温及び湿度はどのくらいだったのか。
- ・ 東電に仕事で出入りしていた。下請け、孫請け等、出入り業者が多く、コミュニケーションに問題があったのではないか。
- ・ 中越地震以前から、片貝で二酸化炭素1万tの地中貯留試験を行っていたとのことだが、それが地震の原因になったのではないのか。また、新潟県付近は石油ガスの埋蔵が多い。これについても、地震とは関係ないのか。
- ・ 中越沖地震における保安院の反省点は何か。そのような時の即時の情報提供の方策を考えてほしい。
- ・ 地震予知のための体制・設備を整えてほしい。
- ・ 国の「安全」と住民の「安心」との関係について、安心の担保の主体はどこになるのか。また、リスクコミュニケーションの具体策は何なのか。

アンケートより

- ・ 専門家の安全側に立った議論が押しつぶされようとしている。住民の1人として、不安は消えない。
- ・ 緊急停止させ、全部調べて問題ないなら、不安解消の証拠となる。
- ・ 再開後、災害が発生したら誰が責任取るのか。
- ・ 子供たちのためにも運転再開は急ぐべきではない。
- ・ 調査報告で炉心格納容器がなんともないとのことだが、シュラウドのひび、ずれた燃料棒、炉心そのものは大丈夫なのか。
- ・ 1号機火災について、作業員の教育訓練に問題があるのではないのか。いまさら「危険物取扱について研修しない者には作業をさせない。」とは呆れる。再発防止のため、特別委員会を設けたようだが、形式だけで作業員には伝わらない。企業活動マネジメントの欠陥である。市は東電、保安院に厳しく要求してほしい。

- ・ 地表には現れない活断層による褶曲もあるとの東大地震研等からの新しい知見も取り入れてほしい。
- ・ 長岡西縁断層からの地震の際、発電所敷地の地盤は「傾斜せずにゆっくりと隆起する。」との説明は不自然である。
- ・ 施設・機器は経年劣化のうえ、想定外の大きな力を受けているのだから非破壊検査等、新品以上のことをするべきである。それができなければ、「使用しない」とすることが当たり前である。
- ・ 見られるところ、検査できるところ、全て目視点検だけでも実施したのか。
- ・ 「安全確保できた。」「適正に作業した。」としているものについて、それらを確認できる調査・報告等の根拠はあるのか。
- ・ 市は今回の説明会で出された発言をどのように活用するのか。回答はもらえるのか。
- ・ 市民だけでなく、市内に通勤する者の意見も聞いてほしい。
- ・ 今回の説明会だけでは、市民の意見・意向がわかったとはならない。正しくそれらを把握する方法を検討・実施してください。起動についての判断はその後にしてほしい。三者会談では「起動試験には時期尚早である。」としてほしい。
- ・ 国の基本は国民の生命・財産を守ることにあるので、さらなる安全確保に努め、対応を希望します。
- ・ 安全第一に再開してほしい。東電と地域は共存共栄の関係である。
- ・ 全号機の安全検査、審査の完了予定はいつ頃になるのか。
- ・ 末端作業員の教育を徹底してほしい。
- ・ 東京電力からの説明がなく、残念だった。
- ・ 協力企業への安全教育が大事である。
- ・ 出雲崎（漁協） 柿崎（漁協）でも説明会を開催してほしい。
- ・ 専門的で断定できない部分もあるが、今回の説明会で安心できた。
- ・ 保安院の話は初めて聞いた。非常に良い説明であった。7号機の再稼動を望みます。
- ・ 7号機を早急に運転するよう要望する。
- ・ 東電は復旧に向けて総力をあげて取り組んでいるようではあるが、下請け等、他社への依存が多いのではないのか。
- ・ 「原子力に関する無知」が「原子力は怖い。」の原因の一つである。初歩的なことから教えてくれるような勉強会を設けてほしい。
- ・ 再開が、なぜ7号機からで、1号機からではないのか。
- ・ 早期再開が国益につながる。日本の原子力技術の高さを世界に見せるべきである。
- ・ 夏場の電力不足に備えた「再開ありき」の説明会ではないのか。
- ・ 安心の担保はどうなるのか。基準は何なのか。
- ・ なぜ7号機からの起動なのか。他号機は損傷箇所が多いためなのか。老朽化しからの起動は無理なのではないのか。
- ・ 建屋内の作業チェック体制は完全でしょうか。
- ・ 現作業員の知識の向上が必要である。
- ・ 地元住民が安心して住めることが大事である。安全面をしっかりとサポートしてほしい。
- ・ 全号機の安全性・健全性の確認後、早期再開を望む。

- ・ 専門的なことはわからないが、英知を集め、再開にがんばってください。
- ・ あらゆる面から点検していることがわかった。現時点での最善を尽くしていると思う。
- ・ 7号機再開論議のなか、1号機の火災は少々心配である。
- ・ 信頼が薄れぬよう、火災・事故を皆無にするよう厳しい指導をお願いします。
- ・ 安全性が確認されれば、1日も早く再開するべきである。危険性はどの時点でもあるのだから、いちいち気にしてられない。
- ・ 専門家間でも意見が分かれているのに、我々、素人の住民は運転再開の判断はできない。
- ・ 発電所がある以上、共存することが望ましいが、それには安全が必須条件であり、また東電との信頼関係が重要である。事故や火災が頻発するようだと、再開には時期尚早である。
- ・ 国のエネルギー政策について、その一貫性のなさも不信の原因である。
- ・ 勉強不足であった。良く勉強したい。
- ・ 本当に安全ならば、運転再開に協力したい。
- ・ 「保安院としては」ではなく「東電の報告によると」では、結局、東電におんぶなのか。
- ・ 「影響はなかった。」というが数字で説明してほしい。
- ・ 保安院の説明はわかりにくかった。
- ・ 火災が多い。再発することがないように作業員への指導を徹底してほしい。
- ・ 1～6号機の状況がわからない。稼働できるようになるまでの日数の目安を教えてください。
- ・ 1～7号機の被害状況を写真等で公表してほしい。
- ・ 設備補強後、どのくらいの地震に耐えられるのか、教えてください。
- ・ 事故等を起こした企業に対する業務停止等の罰則はないのか。
- ・ 安全が確保されれば、早期運転を望む。
- ・ 住民としては、専門知識・知見を持つ保安院の判断を信頼するしかない。国の保証のうえで再稼働に賛成する。
- ・ 断層にしても、設備健全性にしても安全側に立つべきなのに、安く見積もられている。ここに住み続ける者として大きな不安が残る。
- ・ 保安院は規制機関のはずだが、推進機関としか思えない。県民の命を電気事業者と国に売るのか。
- ・ 全ての問題点の指摘を全面否定し、それを押し通すために「それら学問的(科学的)なことは今後研究する。」として、住民を目くらましで納得させようとする保安院には憤りを感じる。結局国の権威で威圧しているだけである。またそれに追随する学者に対しても憤りを感じる。科学的事実を握り潰すような学者は御用学者と呼んでも科学者とは言えない。今ある知見を真摯に議論しないのか。今後事故が起きても、トラブル隠し、F - B断層等のように、だれも責任は取らないのは明らかである。